

## 第 29 回北信越地区高等学校軟式野球大会（令和 4 年度春季） 新型コロナウイルス感染拡大防止対策ガイドライン

富山県高等学校野球連盟

### 【原則】

- ・ 3つの密、密閉（換気の悪い空間）、密集（多くの人の密集）、密接（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や大声での発声）を回避する。

### 【大会までに講じるべき措置】

- ・ 加盟校は部員の体調を常に把握し、健康状態に異常が認められる場合は、無理せず休ませること。
- ・ 試合に関わる全ての者（大会役員、審判委員、指導者、部員、保護者、報道関係者）は、試合が開始される2週間前からの行動歴（いつ、どこで、誰に会ったなど）を記録しておく。

### 【大会で講じるべき措置】

〈チームの移動〉

- ・ 移動にバスを利用する場合は、密な状態を避ける、窓を開け換気を行う、マスクを着用し大声での対話をしない、などの感染防止対策を実施すること。

〈チームの球場への出入り〉

- ・ 球場入りするチームは最小限の人数とする。
- ・ 参加チームは、当日検温し、ベンチまではマスクを着用する。  
受付時にチーム同行者健康チェック表を提出する。各自の行動履歴は、それぞれが記録し把握しておく。
- ・ 2試合目以降の選手は社会的距離を保って待機し、前試合のチームが退出後、役員の指示で入場する。また、石鹸やアルコール消毒液等で手指消毒を励行する。

〈大会役員（連盟役員、加盟校役員、審判員、記録員等球場内に入場する者）・報道関係者の球場への出入り〉

- ・ 大会役員とメディア関係者は最小限の人数とし、常時マスクを着用する。
- ・ 大会役員および報道関係者は、検温を行い健康チェック表を提出する。入場の際に 37.5 度以上の発熱がある方は入場を断わる。**入場可能な方は ID を携行し、報道関係者は ID に「健康チェック済みシール」を貼付する。**各自の行動履歴は、それぞれが記録し把握しておく。また、石鹸やアルコール消毒液等を置いて出入りの際に手指消毒を励行してもらう。

〈試合開始前〉

- ・ メンバー交換 連絡は最小限とし、攻守決定を主とする。  
第 1 試合はグラウンドのホームベース付近、第 2 試合以降は球場正面で行う。

〈試合開始時〉

- ・ 片手間隔をとってホームベース前に整列し、主審の合図で礼をする。発声はしない。

〈試合中〉

- ・ 審判員は 5 回整備時以外でも、適宜給水と手洗い・洗顔を行う。

#### 〈試合後の消毒〉

- ・試合後、当該試合のチームは、使用したベンチと観客席の消毒作業を行う。

#### 〈メディアへの対応〉

- ・球場内の記者室を利用できるメディア関係者は1社1人とし、記者席での密集、密接を防ぐ。また、主催者は密にならないよう、席の間隔をあけるか、隣と仕切るなどの対策を検討する。また記者席が満席の場合は、スタンドを利用する。
- ・選手や監督への直接取材は勝利チームのみとし、試合後、選手出入り口外など適切な場所で2メートル程度の距離をとって行う。また、取材場所は、10分程度で終わるようにする。取材対象者はマスクを着用させる。

#### 〈救護態勢〉

- ・救護室に看護師を常駐する。球場入りした人の中に熱発や体調不良などを訴える人が出た場合、救護室前で検温のうえ、疑いなしであれば救護室で対応する。疑いがある場合は球場内に設ける医務室で待機してもらい、関係機関の電話相談窓口に連絡して指示を受ける。

#### 〈審判員、記録員について〉

- ・試合を担当する審判員・記録員は最小限の人数とする。
- ・審判室、記録室が密にならないようにスペースを検討する。また、仕切り版を設置する。

### 〈入場と応援・観戦について〉・・・37.5度以上ある方の入場を断わる

#### ①当該校の野球部関係者（登録外の部員、マネージャー、顧問、登録されたコーチ）

- ・当日、チーム同行者健康チェック表を提出する。  
行動履歴は各自が記録し、問い合わせがあった場合は提示できるようにしておく。入場料は無料（当日試合があるチームは終日無料）
- ・音の鳴る道具は太鼓（洋太鼓）をチーム1個のみとメガホンを許可する。ただし、メガホンは叩くのみとする。

#### ②一般入場者

- ・内野入場者数の上限を定める。  
（越えた場合は外野を検討する）
- ・以下の新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、入場料を無料とする。  
【感染防止対策】 検温・手指消毒・入場者連絡先の提出・座席の間隔を空ける・発声をしない  
試合ごとの座席消毒
- ・入場、退場の手順について。  
検温→手指消毒→入場者連絡先の記入と提出→試合観戦→試合後退場→消毒作業終了→再入場

#### 〈スタンドでの観戦と応援について〉

- ・マスクを着用すること、ただし熱中症の危険がある場合はしなくてもよい。
- ・集団で固まっての応援はせず、隣とは1席以上空ける。
- ・声を出さず、拍手を送るのみの応援を基本とする。また、タオルをまわす応援は禁止する。
- ・入場前やインング間などで、トイレの水場等で石鹸での手指消毒を励行する。

<試合終了後のミーティングおよび保護者等へのあいさつについて>

- ・試合終了後、選手出入口付近でのミーティングおよび保護者等へのあいさつは、感染のリスクが高いため禁止とする。
- ・選手は報道の取材が終わり次第速やかに移動すること。

<チームと選手の対応について>

- ・ベンチまでは、マスクを着用すること。監督、責任教師は、常時マスクを着用する。
- ・試合会場では、「手洗いの励行」、「咳エチケット」、「マスクの必要時の着用（受付時や着替え等のスポーツを行っていない際や会話をする際など）」、「室内の換気」を徹底すること。
- ・試合前にベンチに入る人数は、選手 18、指導者 2、記録員 1、（ノッカー1）、補助員 5 を厳守する。  
シートロック終了後、ノッカー、補助員は速やかに退出する。
- ・試合前、試合中のベンチ内は、片手間隔の距離をとること。
- ・円陣を組む場合は、二重円になるなど常に片手間隔をとり、発声はしない。
- ・試合中にマウンド上で集合する際は、伝令も含めてグラブを口に当てる。また、試合中は素手でのハイタッチ・握手を控え、ボールを触った手で目・鼻・口を触らない。
- ・試合中のかけ声について・・・対面に人がいる状況での発声を禁止する。  
グラウンドに出ている選手のかけ声は可とする。ただし、対面に選手がいないこと。  
キャッチャーは、ホームベース前に出て発声すること。  
打者は、捕手・主審方向ではなく、投手方向へ向けて発声すること。  
ベンチ内では、対面に人がいる発声は行わないこと。選手への指示が必要な場合は、主将等が 1～2 歩ベンチの前へ出てかまわない。
- ・水分や塩分、栄養の補給は各選手個別のペットボトルや容器を使用し、共用のコップなどを使用しない。
- ・~~試合後、密閉された空間での理学療法士らによるストレッチ、クールダウンの指導は実施しない。~~
- ・試合後、共用した道具を消毒すること。
- ・飲食時は、周囲の人との対面を避け、会話を控えめにすること。

以上